

ご挨拶（現 代表取締役社長 有馬 浩二）

2023 年 4 月 10 日

本日はお忙しい中、急にお呼び立てしたにも関わらず、会場、およびオンラインにてご参加いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

早速ではございますが、本題に入らせていただきたく思います。本年 6 月の定時株主総会、およびその後の取締役会を経て社長を交代する旨を、本日の取締役会にて決議いたしましたことをご報告させていただきます。私、有馬 浩二は代表取締役会長となり、代わって、隣におります、現在、経営役員のエグゼクティブが代表取締役社長に就任する予定をしております。

林は、1986 年の入社以来、一貫してエレクトロニクス・ソフトウェア開発に携わり、現在は、成長領域であるモビリティ・エレクトロニクス事業グループ長として、CASE 時代におけるクルマの電子化、知能化に貢献する製品開発と、さらなる事業成長への構えづくりを推進しております。それに加え、2020 年からは CSwO(チーフソフトウェアオフィサー)として、クルマ視点でのクロスドメイン開発へのシフトや、グローバルな開発体制の構築、リカレントによるソフトウェア人材の育成、強化など、デンソーがソフトウェアを使いこなせる会社になれるよう、変革を進めております。

また、多様な価値観、スキルを持つメンバーの共感をつくり出しながら、強みを最大限に引き出すリーダーシップに長けており、これまで、エレクトロニクス・ソフトウェアの開発においてもさまざまな領域のエンジニアや、モノづくりのプロ集団を巻き込み、それぞれの強みを最大化しながら、世界初の製品を世に出してきました。

デンソーはこれまで、メカ、エレクトロニクス、ソフトウェアの三位一体での製品開発を強みとしてきており、それは、これからも変わりません。今後、クルマがモビリティに進化し、ますますソフトリッチな社会になっていく中で、ソフトの重要性がさらに高まってきております。またモビリティが、クルマの中はもちろん、社会ともつながる中で、社内外、業界内外の方の共感を得ることも大変重要で、林は、社長として十分に期待に応えることができる人物だと思っております。

私は、会長 CEO として経営の最終責任を負いますが、林には、社長 COO として、すべての執行を取り仕切ってもらいます。また、新体制では、現在、経営役員のエグゼクティブが代表取締役副社長に就任し、経営戦略や財務の視点から新社長を支え、執行の 2 トップとして会社をリードしてもらう予定です。引き続き「環境」と「安心」を軸に、笑顔広がる未来を、新社長体制らしいやり方で社会に届けていってほしいと思っております。

最後になりますが、皆様方には、これまで同様に、新社長体制でのデンソーにも、変わらぬご支援、ご鞭撻をいただきたく、何卒よろしくごお願い申し上げます。

以上